

## 令和2年度卒業生への卒業時アンケートの概要報告

### 【目的】

・本調査の目的は、本学の教育をより良いものとする目的で、令和2年度卒業生に対してアンケート調査を行った。

### 【方法】

#### 1. 調査対象

・令和2年度に卒業する卒業生。

#### 2. 調査方法

・当初は卒業式前日3/12のオリエンテーションで行う予定であったが、COVID-19の影響により、オリエンテーションの実施が難しくなり、そのため、2月1日から卒業見込みの学生を対象にGmailをお送り、Google formによる卒業時アンケートを実施した。

### 【結果】

#### 問1.所属学科・コース

学部・学科・コース	回答者数	対象者数	回答率
体育学部（全体）	501	579	87%

#### 問2.仙台大学の4年間で一番何に力を注ぎましたか？

項目	1.勉学	2.資格取得	3.部活動	4.友人づくり	5.その他学内での活動	6.学外での活動	合計
回答数	78	71	239	22	11	80	501
割合	15.6%	14.2%	47.7%	4.4%	2.2%	16.0%	100.0%

分析結果：前年度と傾向は変わらないが、勉学や資格取得に力を注いだ学生の割合が増加したのに対して、部活動や友人作り、その他の活動といったいわゆる課外活動に力を注いだ学生の割合は減少した。

#### 問3.仙台大学の教育（教育課程）で成長できた実感はありますか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.全くそう思わない	合計
回答数	158	257	70	16	501
割合	31.5%	51.3%	14.0%	3.2%	100.0%

分析結果：前年度とほぼ同程度の割合であり、そう思うとややそう思うを合計すると8割以上の学生が4年間で成長した実感を持っている。

#### 問4.仙台大学の施設・設備に満足していますか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.全くそう思わない	合計
回答数	129	220	123	29	501
割合	25.7%	43.9%	24.6%	5.8%	100.0%

分析結果：ややそう思うが43.9%と令和元年度に比べ3ポイント下がり、あまりそう思わないが2.4ポイント上がったが、他の回答の割合に大きな変化はみられなかった。コロナウイルスの影響により授業のオンライン対応が増えて大学の施設・設備を利用できる機会が減っているため、今後は更に満足度が下がる可能性もある。施設・設備が利用できない場合でもそれを補うための学生サービスが必要であると考えられる。

#### 問5.仙台大学での4年間であなたの目標は達成できましたか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.全くそう思わない	合計
回答数	108	265	102	26	501
割合	21.5%	52.9%	20.4%	5.2%	100.0%

分析結果：そう思うが21.5%と令和元年度に比べ3.4ポイント下がったが、ややそう思うが52.9%と6ポイント上がり、全体として肯定的な回答はわずかに増えた。しかし、あまりそう思わない・そう思わないの否定的な回答者が依然として1/4程度いることから、その原因を探って対応するなど改善の余地があると考えられる。

問6.仙台大学に入学して良かったと思いますか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.全くそう思わない	合計
回答数	194	213	84	10	501
割合	38.7%	42.5%	16.8%	2.0%	100.0%

分析結果：令和2年度の調査では、そう思う38.7%、ややそう思う42.5%であり、令和元年度の調査時（そう思う50.9%、ややそう思う37.9%）よりも肯定的に評価している者が減少していた。これは、コロナ禍において学生・教員との対面授業や交流の機会、直接的体験等が大幅に減ったことに起因しているのではないかと考えられる。

問7.専攻分野に関する専門的・応用的な知識や技術を身につけることはできましたか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.全くそう思わない	合計
回答数	161	264	61	15	501
割合	32.1%	52.7%	12.2%	3.0%	100.0%

分析結果：令和2年度の調査では、そう思う32.1%、ややそう思う52.7%であり、令和元年度の調査時（そう思う31.4%、ややそう思う55.8%）と比較して増減は認められなかった。これは、コロナ禍におけるオンライン授業への切り替えなどに関わらず、専門的・応用的な学習機会が得られていたことにより、知識・技術が獲得できていたと考えられる。

問8.大学で専攻した分野が果たす役割を深く理解することはできましたか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.全くそう思わない	合計
回答数	154	268	66	13	501
割合	30.7%	53.5%	13.2%	2.6%	100.0%

分析結果：1と2の肯定的な回答が令和元年度は、81.3%、令和2年度が84.2%と2.9%上昇しているため、大学での専攻した分野が果たす役割を深く理解することができたことが、わずかではあるが上昇傾向にある。

問9.専攻分野の実践の場において、知識・技能を相手に的確に伝える力はつきましたか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.全くそう思わない	合計
回答数	127	274	87	13	501
割合	25.3%	54.7%	17.4%	2.6%	100.0%

分析結果：1と2の肯定的な回答が令和元年度は、75.6%、令和2年度が80.0%と4.4%上昇しているため、専攻分野の実践の場において、知識・技能を相手に的確に伝える力は、わずかではあるが身についたと実感する学生が増加傾向にある。

問10.多様な人々と円滑な人間関係を築く力はつきましたか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.全くそう思わない	合計
回答数	222	214	55	10	501
割合	44.3%	42.7%	11.0%	2.0%	100.0%

分析結果：令和元年度と比較して「そう思う」が11.8ポイント低下しているが、「ややそう思う」は8.3ポイント上昇しているため、全体としての傾向に変化はない。ただし、令和3年度以降はコロナ禍の影響を強く受ける質問項目になると想定されるため、今後注目する必要がある。

問11.指導や支援を行う場において、専門的知見を踏まえて、適切にコミュニケーションできる力はつきましたか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.全くそう思わない	合計
回答数	178	256	60	7	501
割合	35.5%	51.1%	12.0%	1.4%	100.0%

分析結果：「そう思う」と回答した学生の割合が令和元年度よりも5.2ポイント低下している。一方で、「全くそう思わない」と回答した学生の割合が令和元年度よりも0.9ポイント上昇している。小さいながら、ネガティブな変化になっている。コロナ禍で学生が指導や支援を行う場・機会は少なくなってきているので、今後の動向に注目する必要がある。

問12.多様な人々とコミュニケーションを図りながら課題を探索し、主体性を持って課題解決に取り組む力はつきましたか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思 わない	4.全くそう思わ ない	合計
回答数	167	255	69	10	501
割合	33.3%	50.9%	13.8%	2.0%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」と「2. ややそう思う」の合計が令和元年度の88.3%から令和2年度は84.2%へ4.1ポイント低下している。これは新型コロナウイルス感染拡大で演習や実習などの授業の多くがオンラインに切り替えられた影響とみられる。

問13. 大学からiPadの貸与を受けて良かったと思いますか

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思 わない	4.全くそう思わ ない	合計
回答数	208	156	80	57	501
割合	41.5%	31.1%	16.0%	11.4%	100.0%

分析結果：「3. あまりそう思わない」「4. 全くそう思わない」の合計が27.4%とほぼ4人に1人が否定的に受け止めている。これはすでに同等のiPad、または上位機種を所持していた学生が存在したことも一因にあげられる。事前にアンケートを取れば無駄にはならなかったが、迅速な対応を考えると致し方なかったのかもしれない。

問14. 本学のオンライン授業の内容はわかりやすかったですか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思 わない	4.全くそう思わ ない	合計
回答数	101	229	117	54	501
割合	20.1%	45.7%	23.4%	10.8%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」と「2. ややそう思う」の合計が65.8%、これに対して「あまりそう思わない」と「4. 全くそう思わない」の合計が34.2%で、3分の1以上の学生が不満を持っていた。これは早くからクラウド学習ツールに対応していた教員が少なく、大半の教員が急遽対応を余儀なくされ、不慣れなまま授業を行わざるを得なかったためと思われる。